

鹿児島市図書館基本の運営方針

令和4年3月

鹿児島市

目 次

I 基本的運営方針の策定にあたって

- 1 策定(改定)の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 基本的運営方針の位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

II 鹿児島市図書館を取り巻く状況

- 1 図書館に関わる国の動き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 2 本市図書館を取り巻く状況と今後の図書館運営のポイント(目指す姿)・・・・・・・・・・・・・3

III 基本目標と施策

- 1 基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
- 2 体系図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
- 3 施策の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

IV 指標・目標値・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

I 基本的運営方針の策定にあたって

Ⅰ 策定(改定)の趣旨

鹿児島市立図書館は、平成2年12月の開館以来、図書、郷土資料、視聴覚資料等の収集、整理、保存を図り、図書館資料を市民の利用に供し、その利用のための相談に応ずるとともに、読書会、展示会等を開催し、その奨励に努めてまいりました。

また、移動図書館の巡回及び地域公民館図書室(以下図書室)との連携や、他の図書館、学校、その他の機関との連携及び協力を行い、市民の教育の振興及び文化の発展への寄与に努めてまいりました

平成28年3月には「鹿児島市立図書館基本的運営方針」を策定し、図書館としての目指す目標を定め、実効性のある取組を進めてきたところです。

近年、新型コロナウイルス感染症拡大による社会や生活様式の変化、人口減少・少子高齢化の進行、グローバル化・ICT^{*1}の進展、価値観の変化・多様化など、図書館を取り巻く状況も大きく変化しています。本市図書館でも、令和4年2月の電子図書館サービス運用開始、令和4年春の天文館図書館開館など、新しい取組が始まります。

このような図書館を取り巻く変化に対応し、改めて今後の取組の方向性・指標を見直すなどの改定をします。

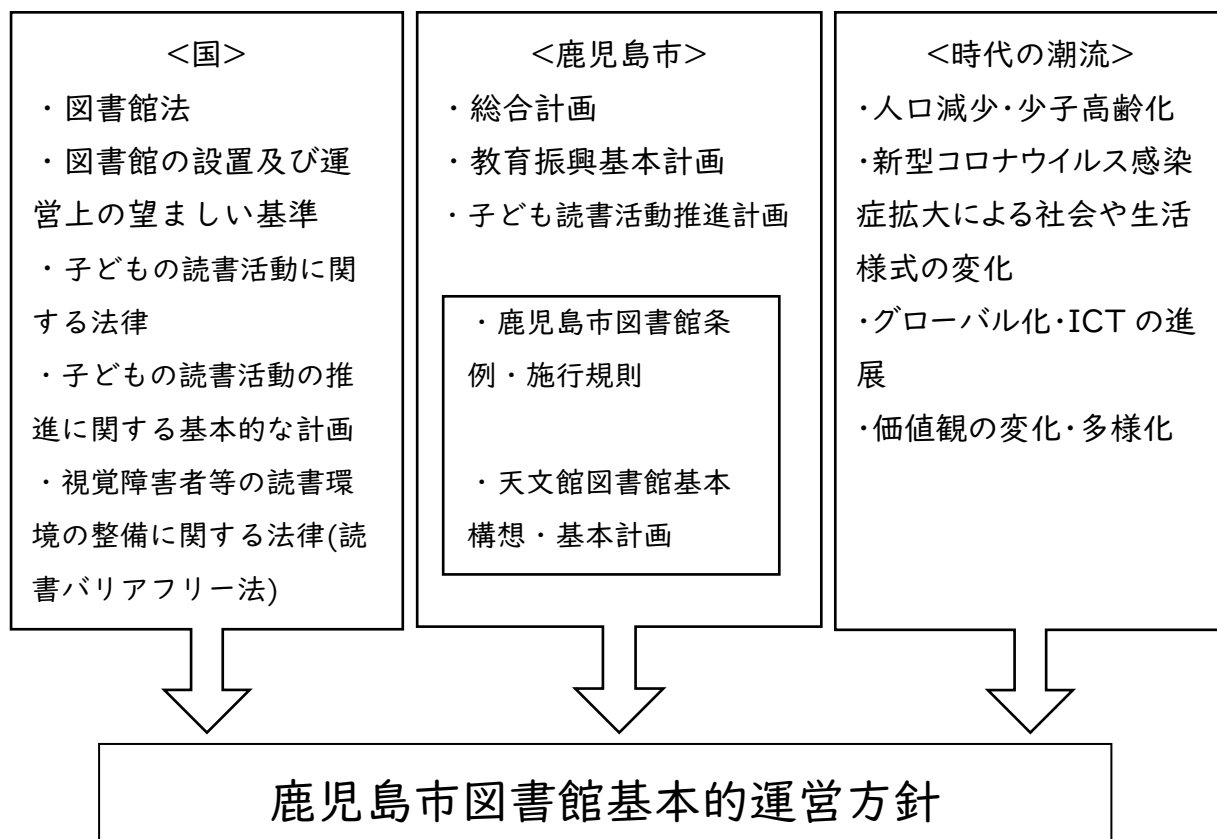
なお、令和4年春から、鹿児島市立図書館及び鹿児島市立天文館図書館の2館体制となり、設置を定める条例を「鹿児島市立図書館条例」から「鹿児島市図書館条例」と名称を変更いたします。これに合わせ、本方針も、名称を「鹿児島市図書館基本的運営方針」といたします。

^{*1} 情報通信技術。information and communication technology の略称である。（『日本大百科全書』）

2 基本的運営方針の位置付け

本方針は、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成 24 年 12 月 19 日文科科学省告示第 172 号)」に基づき、同基準に示されている管理運営、図書館資料、図書館サービス及び職員について、図書館を取り巻く動向を踏まえ、多様化・高度化する市民の要望に対応するために、概ね 10 年後の未来を見据え、本市図書館の目指すべき目標と今後の取組の方向性を示すものです。図書館の利用状況等のデータ分析や取組の効果検証を踏まえて、図書館運営に取り組むものとしします。あわせて、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」を踏まえた内容としします。

なお、本市図書館を取り巻く社会情勢の変化や上位計画の改訂などを踏まえ、必要に応じて見直しを行うこととしします。



Ⅱ 鹿児島市図書館を取り巻く状況

Ⅰ 図書館に関わる国の動き

「これからの図書館の在り方検討協力者会議」(文部科学省設置)がまとめた「これからの図書館像 ～地域を支える情報拠点をめざして～」(平成18年3月 報告)では、社会状況の変化を踏まえ、これからの図書館サービスに求められる新たな視点として、①図書館活動の意義の理解促進、②レファレンスサービス^{*2}の充実と利用促進、③課題解決支援機能の充実などが重要であるとし、これからの図書館が目指すべき図書館像のキーワードとして、「役に立つ図書館」をあげています。

図書館に関わる国の大きな動きとしては、「図書館法」の改正(平成20年6月)に基づき、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(平成24年12月)が施行されました。当該基準では、社会情勢や図書館へのニーズの変化に対応した新たな図書館の役割が示され、市立図書館事業の実施等に関する基本的な運営方針を策定し、公表するよう努めることとされています。

また、令和元年度には「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」(読書バリアフリー法)が施行され、全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に向けて、図書館の重要性は高まっています。

^{*2} 情報を求めてきた個々の利用者に対して、図書館員によって提供される人的援助の形式をとるサービスとこの活動を効果的に行うために必要な資料を整備・作成することをいう。(『最新図書館用語大辞典』)

2 本市図書館を取り巻く状況と今後の図書館運営のポイント(目指す姿)

(Ⅰ) 人口減少と少子高齢化

本市の人口減少は、国や他都市と同様に、今後、少子高齢化の進行に加え、老年人口(65歳以上人口)さえも減少していくことが予想されます。また、予測困難な時代においてこれからのよりよい社会の担い手となる若い世代の「生きる力」の育成と人生100年時代を見据えた環境づくりが求められています。

ポイント

誰もがあらゆる機会に学び続けることができる生涯学習の場としての図書館

(2) 新型コロナウイルス感染症拡大等による社会の変化

新型コロナウイルス感染症の影響は、社会、経済、さらには人々の行動や価値観などあらゆる面に波及しています。また、記録的大雨や大震災などの災害の発生も予想されます。

図書館においても求められる行動様式に合わせ、より安全に図書館サービスを提供できるように変化してきています。

ポイント

いかなる状況下でも図書館サービスを提供できる体制と社会変化に対応する柔軟さ

(3) グローバル化の進展

ICTの飛躍的な発展や交通手段の発達などにより、グローバル化が一層進展し、世界規模で社会的・経済的な結びつきが深まっています。本市でも外国人数は年々増えており、様々な国籍の方々が鹿児島市で生活されています。また、本市では、海外観光客受入体制の充実を図っています。一方、世界に出て活躍する人材の育成のために必要な情報提供も求められています。

ポイント

- ・多文化共生に関する学習機会の提供
- ・外国人の日本語や日本社会及び「かごしま」に関する理解の支援

(4) ICT の進展

ICT の発展に伴い、インターネットやモバイル端末が普及する中で、図書館でも ICT 化が進んでおり、今後、資料や情報のデジタル化は、ますます進展していくものと考えられます。

ポイント

- ・Wi-Fi やインターネット環境の整備
- ・電子図書館サービスなど ICT を活用した環境整備やサービス
- ・紙とデジタル資料を効率的に組み合わせた資料提供

(5) 持続可能な開発目標 (SDGs)

鹿児島市総合計画及び鹿児島市教育振興基本計画では、持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) を世界共通の目標として本市施策との関連付けを行っています。

図書館でも、SDGsの視点を取り入れながら図書館施策を推進することが求められています。

ポイント

- ・SDGsの視点を取り入れた図書館施策の推進
- ・関連目標「4 質の高い教育をみんなに」
「11 住み続けられるまちづくりを」
「16 平和と公正をすべての人に」
「17 パートナースhipで目標を達成しよう」



(6) 市民ニーズの現状

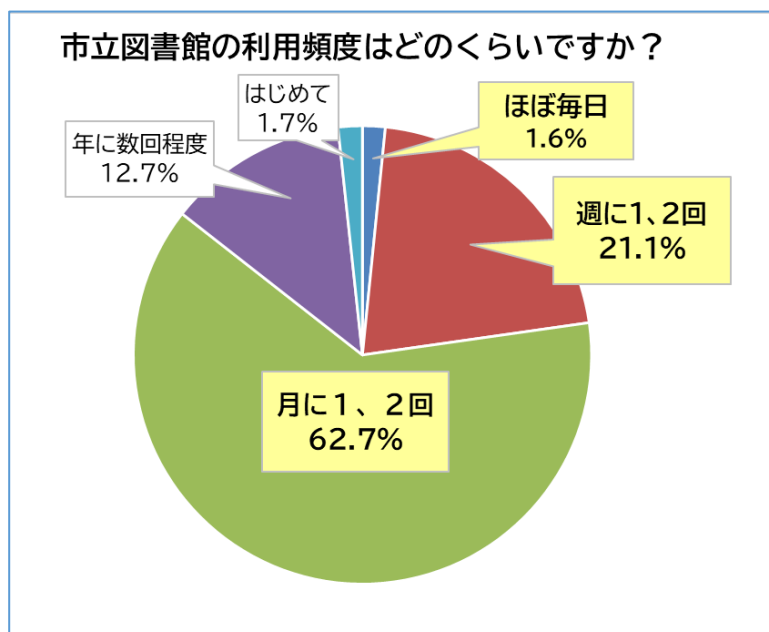
① 利用者アンケートから

現状の課題を探るとともに、今後の図書館運営の参考とするため、普段図書館をご利用いただいている方々に毎年お聞きしているものです。

調査期間：令和3年2月1日（月）～2月10日（水）
調査対象：市立図書館の利用者
調査方法：無記名による自主記入及び QR コードによる回答
回収数：871件

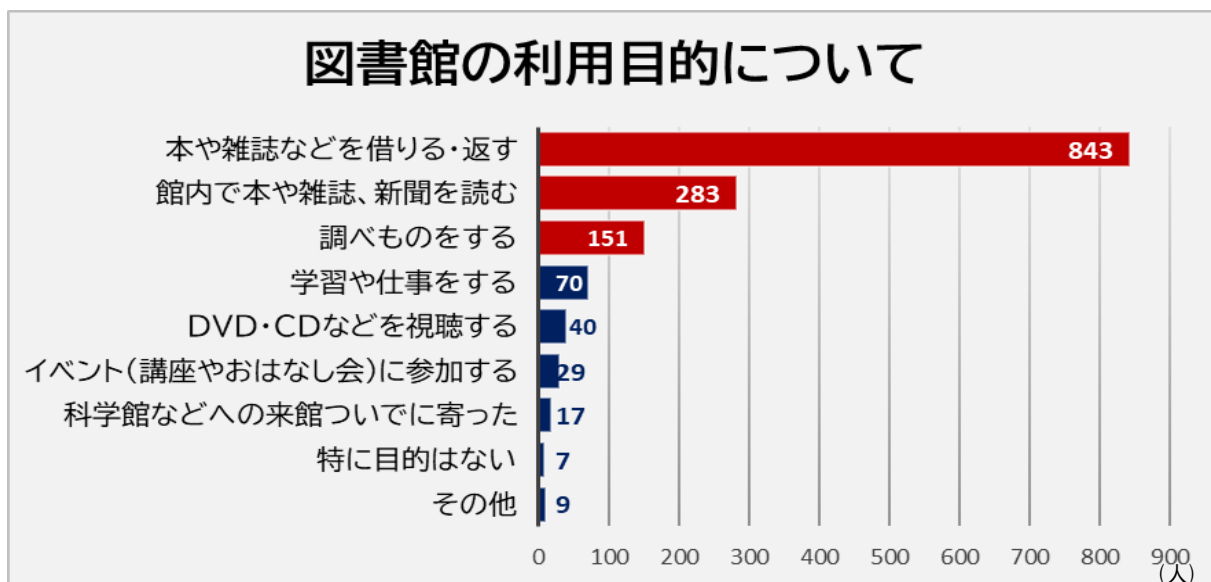
ア 図書館の利用頻度から

利用者アンケートでは、月に1, 2 回以上図書館を利用する人の割合が8割を超えています。



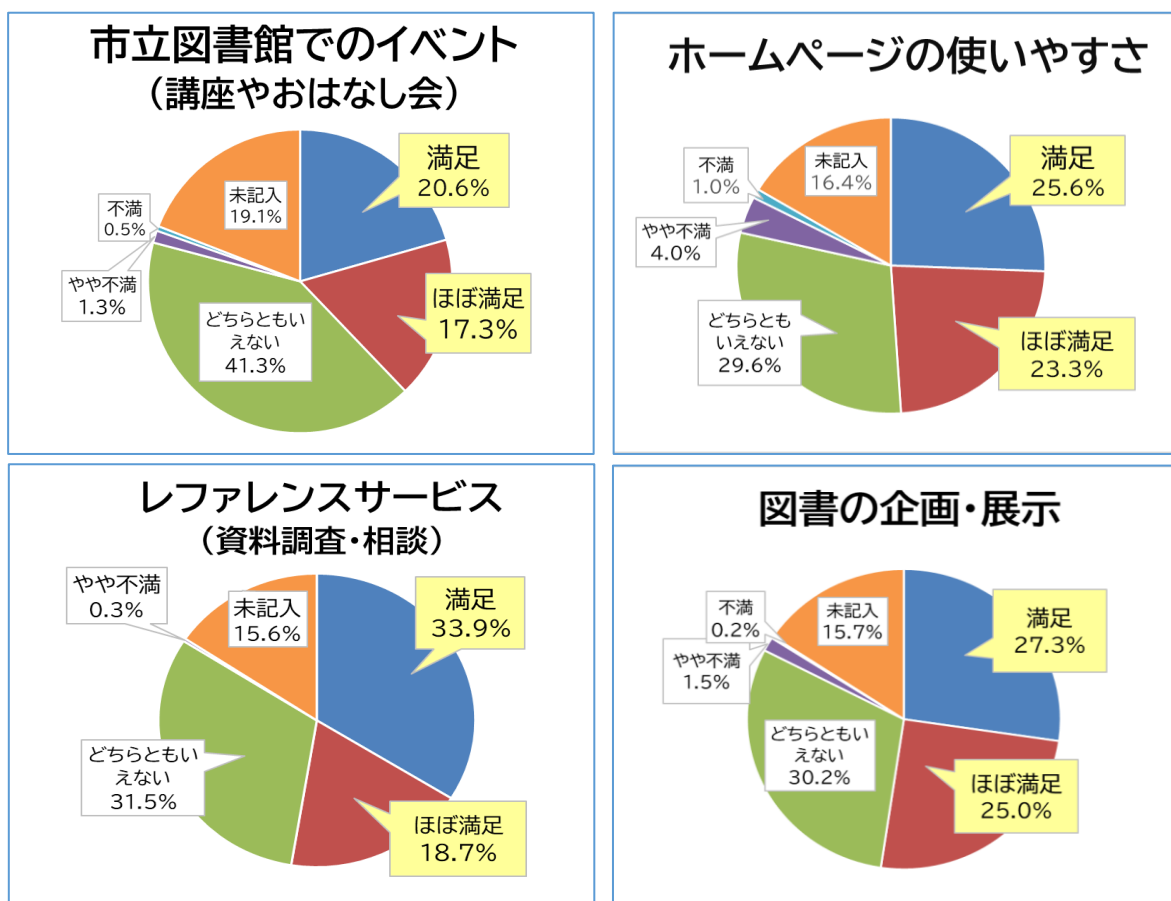
イ 図書館の利用目的から

利用目的としては、「本や雑誌などを借りる・返す」と答えた人が843人と最も多く、「館内で本や雑誌、新聞を読む」が283人、「調べ物をする」が151人と続いています。一方、講座やイベントを目的とした来館や、目的のない来館をする人は少ない状況です。



ウ 満足度から

満足度の低いものとして、「市立図書館でのイベント」「ホームページの使いやすさ」「レファレンスサービス」「図書の企画・展示」があります。



ポイント

- ・ 図書館についての効果的な情報提供・広報
- ・ サードプレイス^{*3}としての図書館利用
- ・ 参加したくなる講座やイベントの実施
- ・ 資料の魅力が伝わるような企画・展示の工夫
- ・ 利用者のニーズに応じたレファレンスサービスの充実

^{*3} 家や職場とは異なる、第3の自分の居場所(『現代用語の基礎知識 2019』)

② 天文館図書館アンケートから

市民等ニーズを把握し、天文館にできる図書館の蔵書やサービスの充実を図るために実施したものです。普段図書館を利用しない方にも回答していただいています。

実施期間：令和2年7月～8月

実施対象：ファミリー層、若者（中・高・大学生）層、ビジネス層

実施場所：中央駅前、中央公園、商店街（天文館）、商業施設、動物園、水族館
子育て支援施設、学校

実施方法：街頭アンケート、質問紙の郵送調査、インターネット

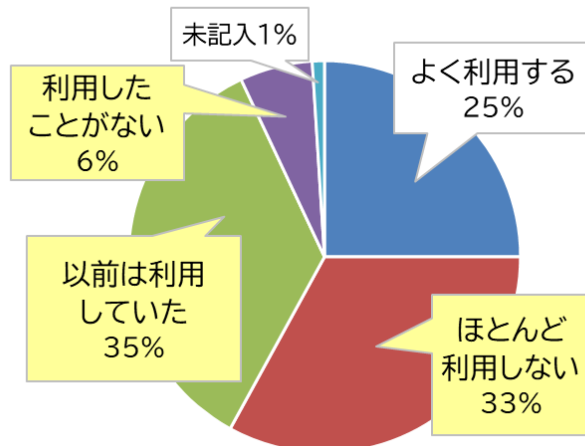
回収数：490件

ア 図書館の利用頻度から

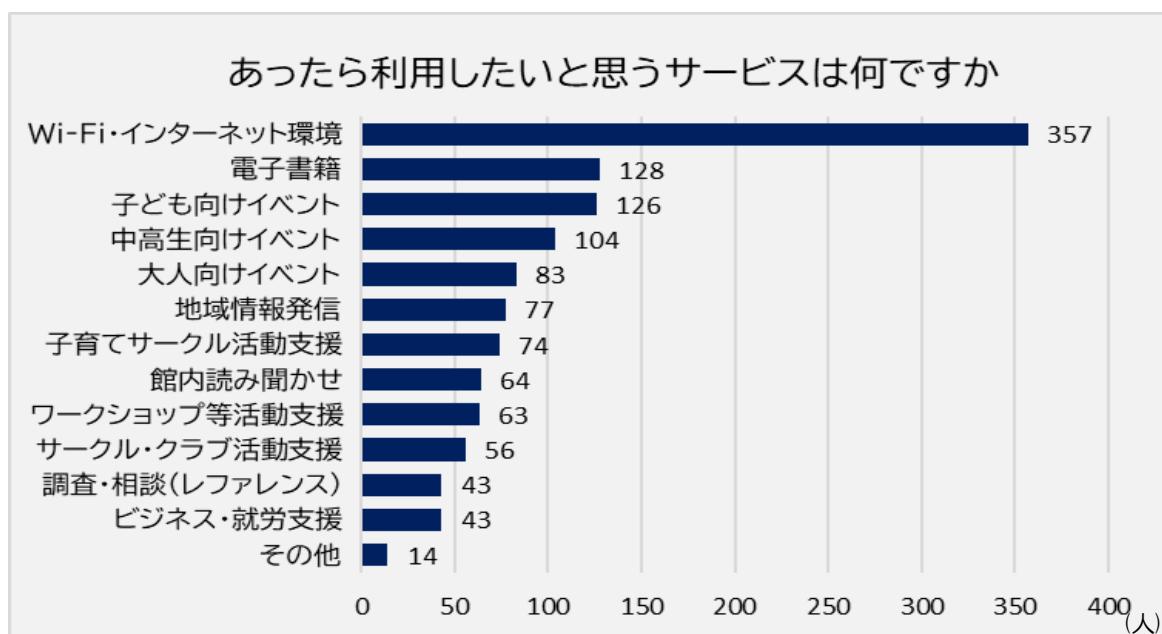
天文館図書館アンケートでは、「ほとんど利用しない」「以前は利用していた」「利用したことがない」と答えた人の割合が7割を超えています。

また、図書館を利用しない理由として、約3割の人が「図書館が遠い」「アクセスが悪い」と回答しています。

市立図書館を利用したことがありますか？



イ 利用したいサービスから



【自由記述】具体的にどのようなサービスやイベントがあったらいいと思いますか。

<サービス>

- ・カフェ・飲食スペース
- ・子どもが騒いでも大丈夫なスペース
- ・講座等での託児サービス
- ・タブレットの貸出
- ・無人貸出機
- ・非来館での本の貸出
- ・座席ネット予約制
- ・障害者や性的マイノリティの方が利用しやすい設備
- ・朗読サービス

<イベント>

- ・講演会等(作家や有名人)
- ・各種講座
- ・発表の場
- ・大学・専門学校を中心としたイベントやワークショップ
- ・進路・進学相談
- ・地域との交流
- ・育児相談
- ・鹿児島の魅力を伝えるイベント(歴史・観光)
- ・展示会(芸術作品や学生の作品など)

全ての世代で多かったのが「Wi-Fi・インターネット環境」という回答でした。

「電子書籍」という回答は若い世代で多く、レファレンス(調査・相談)は、中学生・高校生に多い回答でした。

ポイント

環境

- ・図書館までの交通アクセスの改善
- ・ゆっくり快適に過ごすための空間づくり
- ・子どもが自由に過ごせる環境・子ども連れの利用者が安心して過ごせる空間
- ・Wi-Fi・インターネット環境やタブレットなど機器の整備
- ・居場所としての図書館利用

資料

- ・市民の役に立つ資料や「かごしま」の魅力を伝える資料の計画的な収集
- ・効果的なテーマ分類や配架・展示の工夫

イベント

- ・関係機関との連携や市民参加による魅力のあるイベントの企画・実施

サービス

- ・レファレンスサービスの充実と利用促進のための手立て
- ・図書館にない情報や人・機関などを紹介するレフェラルサービス^{*4}の充実
- ・障害等のある利用者や外国籍の利用者へのサービスの充実
- ・図書館や図書室に来館できない方々へのサービスの充実
- ・利用者の課題解決につながる情報リテラシー^{*5}向上のための支援

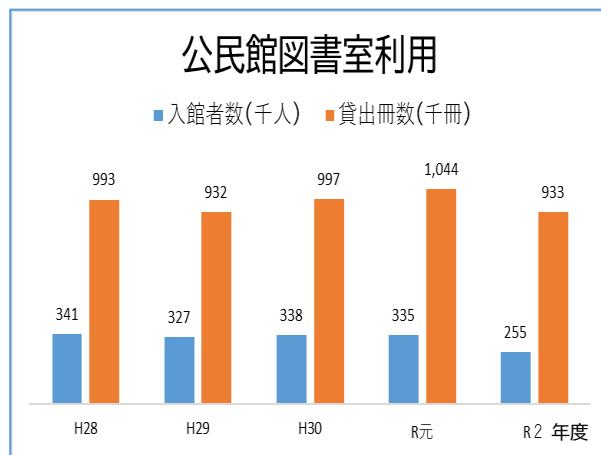
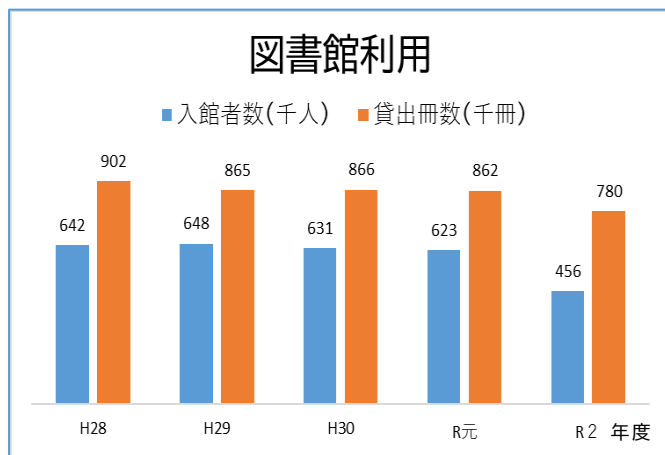
^{*4} 利用者の要求するテーマに関する情報源(人、機関など)を知らせるサービス(『最新図書館用語大辞典』)

^{*5} さまざまな種類の情報源の中から必要な情報にアクセスし、アクセスした情報を正しく評価し、活用する能力(『図書館情報学用語辞典 第5版』)

(7) 関係機関との連携

① 図書室との連携及び移動図書館の利活用

図書室(12室)をオンラインで結び、図書の貸出・返却は、図書館・図書室・移動図書館のどこでも可能としています。公民館図書室での貸出冊数は、新型コロナウイルスの影響のあった令和2年度を除き、年々増加の傾向にあります。



【図書館統計】

ポイント

- ・図書室と連携した資料収集・整備、配架・展示、貸出
- ・アウトリーチサービス*6の充実
- ・移動図書館の機能の充実

図書室改修時における支援、学校図書館支援図書配送、移動図書館おはなし会

*6 通常の方法ではサービスが届かない人たちにサービスを行き渡らせるためより積極的能動的に図書館が工夫をこらす活動のこと(『最新図書館用語大辞典』)

② 学校との連携

市内の学校における読書活動や、調べ学習活動を支援することを目的として、市内の学校に勤務する教諭、学校図書館司書等に学校図書館支援図書や行事等で使用する読書活動用備品(特別貸出)の貸出を行っています。

【学校図書館支援図書貸出利用数】

	H28	H29	H30	R元	R2
利用者数	64人	94人	64人	61人	72人
冊数	928冊	1,219冊	959冊	804冊	976冊

【学校関係者による特別貸出利用数】

	H28	H29	H30	R元	R2
学校数	13校	19校	20校	15校	21校
利用件数	18件	34件	28件	31件	36件
貸出冊数	229冊	281冊	265冊	336冊	419冊

また、図書館見学や職場体験学習などの受け入れも行っています。

【図書館見学】

	H28	H29	H30	R元	R2
学校数	32校	29校	33校	25校	20校
人数	2,318人	2,616人	2,478人	2,024人	1,800人

【職場体験学習(中・高生)・図書館実習(大学生)・社会奉仕体験研修(教職員)】

	H28	H29	H30	R元	R2
学校数	38校	28校	26校	29校	14校
人数	249人	143人	117人	122人	65人

一方、ガイドブックの作成、学校図書館支援図書の選書、ビブリオバトル^{*7}等イベントの広報・申込など、図書館事業に、学校図書館司書や読書指導担当職員の協力をいただいています。

^{*7} 参加者同士で自分の気に入った本を持ち寄り、その本の魅力を紹介し合う書評ゲーム(『図書館情報学用語辞典 第5版』)

学校図書館については、「これからの学校図書館の活用の在り方等について」(H20年9月 子どもの読書サポーターズ会議 審議経過報告)の中で、家庭や地域における読書活動推進の核として、学校図書館を活用することが示されており、本市図書館も、引き続き、学校図書館の協力・支援を行っています。

ポイント

- ・ 図書館利用学習等の充実
- ・ 学校図書館支援図書等の運用見直し
- ・ 学校と連携した、子どもの発達段階に応じた読書活動の推進
- ・ 家庭や地域における読書活動推進の核としての学校図書館活用への協力・支援

③ 家庭や地域との連携

家庭との連携としては、ブックスタート事業^{*8}、絵本ガイドの配布、子どもの読書活動啓発をねらいとした保護者対象の講座や研修会などを行っています。また、親子で読書活動を楽しんでもらうために、おはなし会やイベント、読書通帳の発行を行っています。

地域との連携としては、移動図書館による巡回サービス、講師派遣や市政出前トーク、読み聞かせボランティアグループの発表機会の提供などを行っています。

^{*8} 市民課等での出生届出の際、0歳児とその保護者に絵本及び絵本ガイド(0～3歳児向け)等を配布するもの

ポイント

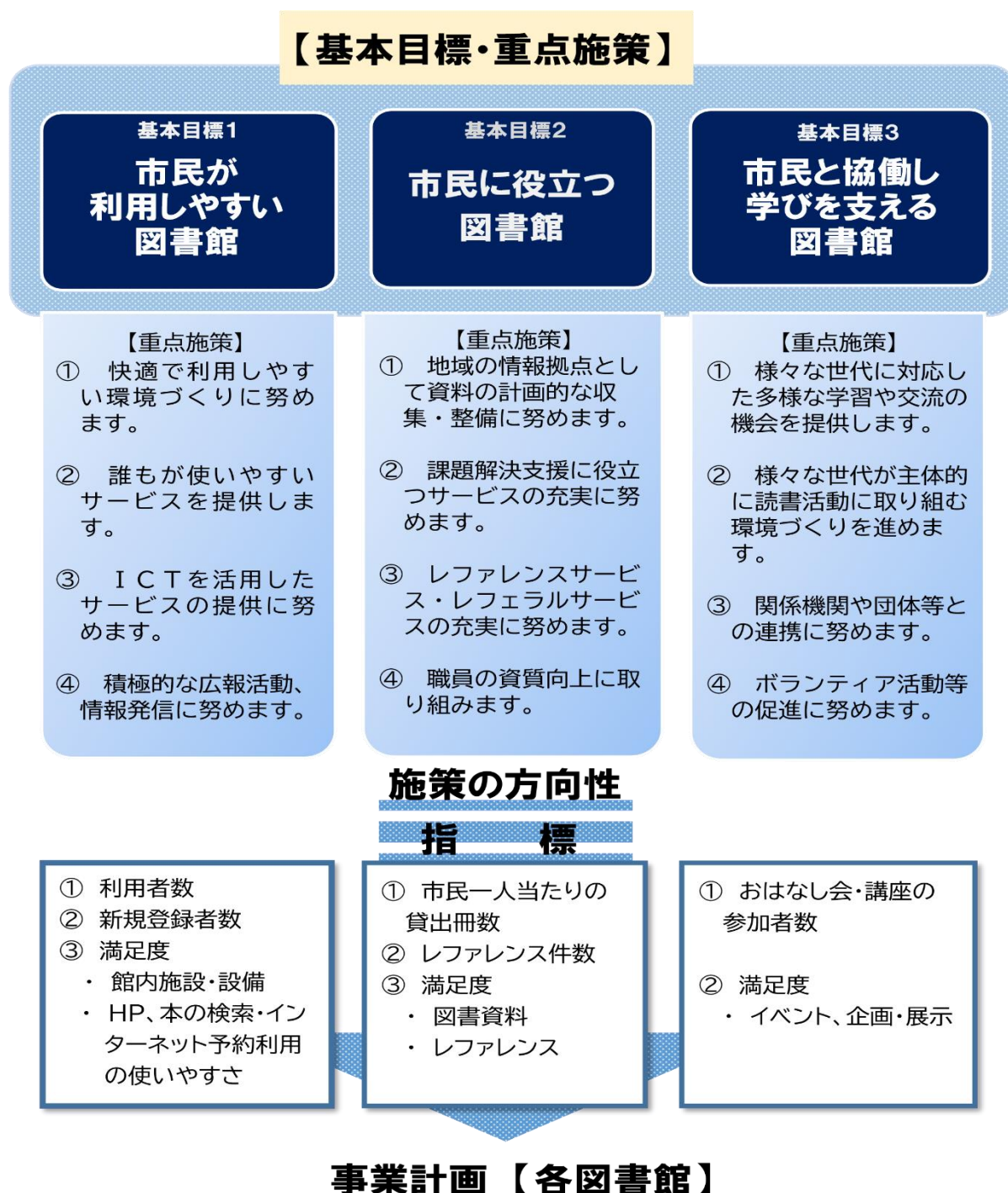
- ・ 子どもの読書活動を推進するための家庭や地域への支援
- ・ お達者クラブや地域サークル等への講師派遣
- ・ 移動図書館や郵送サービスについての広報や利用促進
- ・ 図書館に来られない市民へのサービスの広報や利用促進

Ⅲ 基本目標と施策

Ⅰ 基本目標

鹿児島市図書館は、誰でも気軽に利用できる図書館を目指し、引き続き、「市民が利用しやすい図書館」「市民に役立つ図書館」「市民と協働し学びを支える図書館」の三つを基本目標として運営してまいります。なお、今回の改訂では、重点施策、施策の方向性を見直しました。

2 体系図



3 施策の方向性

(I) 市民が利用しやすい図書館

市民にとって利用しやすく、利用したくなる図書館にするため、新たな図書館の役割として求められている居場所づくりや環境づくり、ユニバーサルデザインの視点に立ったサービスの提供、ICTの利活用、図書館の魅力を伝える広報活動・情報発信に努めます。

① 快適で利用しやすい環境づくりに努めます。

- 利用者がそれぞれの目的に応じて、図書館を快適に利用できるよう、わかりやすい案内表示や書架サイン、書架配置など、館内環境づくりを工夫します。
- これまで図書館を利用したことがない人にも利用してもらえよう、「くつろぎ」や「癒し」をもたらす居心地の良い空間の創出を目指します。

② 誰もが使いやすいサービスを提供します。

- 高齢者、図書館利用に障害のある方、乳幼児とその保護者、日本語以外を母語とする方など、あらゆる利用者に利用していただけるよう、多様な資料の充実、わかりやすい利用案内や情報提供の工夫、機器や研究室・点字図書室等の利用促進などユニバーサルデザインの視点に立ったサービスの充実に努めます。
- 図書室と連携した貸出・返却などのサービスを充実するとともに、地域の実情や要望に応じて移動図書館によるサービスの提供に努めます。
- 図書館に来館することが困難な市民にも読書の楽しみを届けるため、電子図書館サービスなどの利用促進に努めます。

③ ICT を活用したサービスの提供に努めます。

- 利用者の利便性の向上を図るため、分類、配架など図書館資料の組織化や書誌データの整備に努めるとともに、図書館電算システムを活用した蔵書検索・予約や貸出・返却などのサービスを提供します。
- インターネットを活用した情報提供や電子図書館サービスの利用促進に努めます。
- 情報提供の高度化・迅速化に対応できるよう、設備やサービスを充実させ、ICT の活用を進めます。

④ 積極的な広報活動、情報発信に努めます。

- 市民の図書館への関心を高め利用を促進するため、図書館についての情報をホームページやSNS等を活用して、わかりやすく発信するとともに、利用者への情報提供にも努めます。

(2) 市民に役立つ図書館

市民に役立つ図書館となるために、市民の多様なニーズに対応できるよう、資料の収集・整備に努めます。また、新たな図書館の役割として求められている課題解決支援に関する資料等を効果的に提供するとともに、利用者が求める情報にたどりつくため、レファレンスサービスやレフェラルサービスを充実するなど、利用者が自ら課題に向き合い、自らの力で問題を解決できるよう支援します。そのために、図書館職員の資質向上に取り組みます。

① 地域の情報拠点として資料の計画的な収集・整備に努めます。

- 市民の多様なニーズに対応して、課題解決支援に役立つ資料を充実させるとともに、各図書館及び図書室の特徴を考慮し、バランスの取れた蔵書構成が図られるよう、資料の計画的な整備に努めます。
- 郷土資料及び地方行政資料、視聴覚資料等多様な資料を収集・整備・提供し、地域課題解決やまちづくりに資する図書館づくりに努めます。

② 課題解決支援に役立つサービスの充実に努めます。

- 市民の生活や仕事に関する課題や地域が抱える課題の解決等を支援するために、就業、子育て、教育、医療・健康、法律、防災等身近なテーマについて実用的な情報を提供するなど、資料や情報の提供その他のサービスの充実に努めます。
- 利用者が自らの力で問題を解決できるよう、情報リテラシーを支援するためのサービスに努めます。

③ レファレンスサービス・レフェラルサービスの充実に努めます。

- 利用者の課題解決支援に向けて、資料及び情報の活用が十分になされるようインターネット等を活用するとともにレファレンス事例やパスファインダー^{*9}等のデータベース化を進め、レファレンスサービスの充実に努めます。
- 利用者の求めに応じて、図書館にない情報や機関・人などを紹介できるよう、関係機関と連携し、レフェラルサービスの充実に努めます。

^{*9} 特定のトピックや主題に関する資料や情報を収集する際に、図書館が提供できる関連資料の探索法を一覧できるリーフレットのこと(『最新図書館用語大辞典』)

④ 図書館職員の資質向上に取り組みます。

- 組織内研修を実施するとともに国や県などの研修への積極的な参加に努め、市民の求める資料や情報を的確に提供できるようにするなど、図書館職員の資質の向上に取り組みます。

(3) 市民と協働し学びを支える図書館

図書館は、市民の読書活動や学習活動、交流活動を支援するために、様々な世代に対応した多様な学習や交流の機会を提供するとともに、子どもの読書活動の習慣化を図り、子どもから大人まで市民が主体的に読書活動に取り組む環境づくりを進めます。併せて、市民の多様な学びを支えるために、関係機関との連携や市民との協働に努めます。

① 様々な世代に対応した多様な学習や交流の機会を提供します。

- あらゆる世代の利用者の学習活動を支援できるよう、おはなし会や講座、資料展示等の充実を図るとともに、研究室(市立図書館2階)などの設備や資料の提供を通して、多様な学習機会の提供に努めます。
- 図書館が生涯を通じて学びの場となるとともに、学習成果を発揮する場・研修成果を発表する場となるよう図書館空間や学習・交流の機会を提供します。
- 図書館と利用者が連携したイベントの開催や、イベント等を通した利用者間の情報交換や交流活動など、市民交流の機会の提供に努めます。

② 様々な世代が主体的に読書活動に取り組む環境づくりを進めます。

- 子どもの読書活動については、第四次鹿児島市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもが読書に親しむ機会の積極的な提供に努め、子どもが主体的に読書活動に取り組むよう、発達段階に応じた読書環境の充実を図ります。
- 家庭、学校、地域の子どもの読書活動の支援に努めます。
- 子どもから大人まですべての世代の方々を対象に、主体的に読書を楽しめるよう読書活動推進事業を実施し、多様な読書機会の提供に努めます。

③ 関係機関や団体等との連携に努めます。

- 多様化する市民の要望に対応できるよう、図書室や市内学校図書館、県内公共図書館、大学図書館等と連携し、サービスの向上に努めます。
- 市内各事業所、企業、科学館、近代文学館・メルヘン館などの関係機関と連携し、図書館という空間を通して、多くの市民が本や情報、人に出会い、今後の活動につながる場となるよう、共催事業や共同企画などの利用促進事業を推進します。

④ ボランティア活動等の促進に努めます。

- 読み聞かせ、整架・配架、資料作成・修理など、図書館に関する様々なボランティアを育成します。
- 習得したスキルを発揮する場として、ボランティア活動の場を提供することで、市民協働による魅力ある図書館づくりに努めます。

Ⅳ 指標・目標値

基本目標ごとに指標・目標値を定め、取組状況を総合的に評価し、改善します。

(1) 市民が利用しやすい図書館

指標名	指標の概要等	現況値(R2)	目標値(R8)
①利用者数	市立図書館入館者 天文館図書館入館者 電子図書館利用者 WEB 予約件数	456,047 人 (入館者のみ) R 元：622.716 人	1,000,000人
②新規登録者数 個人+団体+相互貸借館	市立図書館 天文館図書館 地域公民館図書室	5,296 人 R 元：6,710 人	6,000 人
③満足度 ア 館内施設・設備 イ HP の使いやすさ ウ 本の検索・インターネット 予約利用の使いやすさ	図書館利用者アンケート 満足+ほぼ満足	ア 83.1% イ 48.9% ウ 61.8%	ア 90% イ 80% ウ 80%

(2) 市民に役立つ図書館

指標名	指標の概要等	現況値(R2)	目標値(R8)
①市民一人当たりの貸出冊数	市立図書館 天文館図書館 電子図書館 地域公民館図書室	3.04冊 R 元：3.3冊	5.0冊
②レファレンス件数	市立図書館 天文館図書館 ※レフェラル件数も含む	1,638件 R 元：3,487 件	4,000件
③満足度 ア 図書資料 イ レファレンス	図書館利用者アンケート	ア 74.2% イ 52.6%	ア 80% イ 70%

(3) 市民と協働し学びを支える図書館

指標名	指標の概要等	現況値(R2)	目標値(R8)
①おはなし会・講座の参加者数 (主催事業)	市立図書館 天文館図書館	1,140人 R 元：4,127 人	4,000 人
②満足度 ア イベント イ 企画・展示	図書館利用者アンケート 参加者アンケート	ア 37.9% イ 52.3%	ア 70% イ 70%